

ウィルオブ・コンストラクションの社長に1日付で田中謙氏が就任した。経営方針には「人材派遣から建設会社」とのコンセプトを掲げる。その真意は、建設業界の外側ではなく内側の企業として同社を位置付け直すことだ。建設会社と同じ目線に立つことで「本当の意味で業界の課題に向き合える」と力を込める。生産性向上が叫ばれる中、人材の力で建設現場の改革を後押しする。その戦略を聞いた。



——就任の抱負は
「建設会社が抱える課題を本気で解決するには、立場や歩みを合わせ、ともに立ち向かっていく覚悟が必要だ。人材派遣業界の中で建設業に特化した当社を、建設業界で人材に特化した会社に変えていきたい。それが建設業界の価値観・スタンダードを変えるという当社のミッション推進

新 社 長 Interview

人材派遣から建設会社に

にもつながる」

——建設業界の課題は

「直下の課題は人材不足だ。生産性を高める必要もある

丁寧な指導が受けられないといった声も聞こえてくる。こうした問題はIT技術の浸透で改善できるはずだ」

——注力することは

「DX（デジタルトランスフォーメーション）やBIIMの分野を強くしていきたい。技術者の派遣という手法もあるし、BIIM技術の教育そのものを請け負うという選択肢も考えている」

た建築やインフラを3Dデータ化して残したいというニーズも生まれている。この点に貢献できる職種が用意できれば、現場の施工管理に戻ることが難しい場合でも在宅で働くといった選択が生まれるはずだ。働き方を含めてキャリアの選択肢を増やしたい」

——定着に向けては

「21年に開始した未経験者の派遣業務が順調に進んでい

が、課題解決にはまだまだ人の労働力に頼る部分が大き

く、人材派遣を担うわれわれが貢献できる余地は多い」

「いまでも、設備がなく女性を配属できないという事例があるように女性活躍も課題の一つだ。ただ、同時に男性

に対しても厳しい業界の現状を変える必要があるのではないか。現場からは、細かな指示がなく、時間がな

「先端技術を研究している企業であっても実際の現場運営はアナログな場合がある。なぜ現場にDXが浸透しないのかと言え、ひとえに現場のDX人材が不足しているからだ。建設各社が必要として

いるITスキルを保有した人材をわれわれが個別に育成し、配属することで、DXの普及を後押ししていきたい」

「2D情報でつくられてき

る。やはり、現場に対する理想と現実のギャップに悩むケースは多いが、新卒向けには

二重のフォロワー体制を敷いているため、定着率は非常に良かった。この体制を全面的に展開したいと考えている」

「当社に入ってきた新入社員は人材派遣業界というよりも、建設業界で活躍しようという意識が強い。現場で生き生きと働く様子を通して、施

記者の目

同社の前身であるC4がウィルグループに加わった際から一貫して、事業成長の指揮を執ってきた。営業畑の出身だが、管理部門を経るなど経験の幅は広く、多くの転機に直面しても前を向き実直に取り組んできた。「人生のターニングポイントが多い方が、想像もしていなかった未来にたどり着ける」との言葉からは田中社長のフロンティア精神が伝わってくる。人を通して建設業の改革を目指す同社の、未来を切り開くリーダーとして期待がかかる。

工管理や建設の魅力が世の中に伝わってほしい。業界もよりポジティブな印象が変わってほしいはずだ」

* * *

（たなか・ひろし）2004年3月大東文化大卒業、同年セントメディア（現ウィルオブ・ワーク）入社。11年コールセンター派遣事業部営業部長、15年管理部部長兼戦略推進室室長。18年C4（現ウィルオブ・コンストラクション）取締役、22年同管理本部長兼営業本部長を経て現職。東京都出身。81年5月21日生まれ、41歳。

